

\*\*\*\*\* 我が国統計学の開祖 \*\*\*\*\*

(こうじ)  
法学博士 杉 亨 二 先生年譜



長崎が生んだ統計の開拓者であり近代統計調査の先駆者。  
大政官正院の政表課の大主記に命じられたことにより、初代統計局長と言われている。

明治維新後の我が国の近代化において人口調査の必要性を説き、明治12年には国勢調査の試験調査とも言うべき「甲斐国現在人別調」を実施した。

長崎市では、杉亨二先生の偉業を称え、命日の12月4日を“長崎「統計の日」”として、平成30年より長崎オリジナル記念日に制定している。

- は不明

| 年 月 日                | 年齢 | 事 項                               | 年 月 日              | 年齢 | 事 項                          |
|----------------------|----|-----------------------------------|--------------------|----|------------------------------|
| 文政11. 8. 2<br>(1828) | 1  | 長崎市本籠町に生まれる (現在籠町) 名は純道           | 明治 5. 4. -         | 45 | 日本政表第1巻『辛未政表』刊行              |
| 天保 8. -. -           | 10 | 既に父母なし、時計師上野俊之丞の学僕となる (上野彦馬の父)    | 9. 2. 11           | 49 | 有志とスタチスチックス社を創設              |
| 弘化 2. -. -           | 18 | 大村藩医村田徹斎の書生となる                    | 9. 5. 23           | 49 | 正六位となる                       |
| 嘉永 2. -. -           | 22 | 大阪の緒方洪庵の塾に入る。脚気のため帰国、再び村田徹斎の書生となる | 10. 1. 18          | 50 | 権大書記官となる                     |
| 3. 2. -              | 23 | 江戸に出る。信州松代藩村上英俊を助けて仏蘭西字書を編集       | 11. 12. 18         | 51 | 有志と『製表社』を創設                  |
| 5. -. -              | 25 | 杉田成卿の門に入る。築地奥平邸で蘭学教授              | 12. 12. 31         | 52 | 甲斐国現在人別調実施                   |
| 6. -. -              | 26 | 深川館林藩医立花正甫の家に仮寓勝海舟を知り、その私塾長となる    | 14. 6. 22          | 54 | 統計院大書記官となる                   |
| 安政 2. -. -           | 28 | 老中、阿部正弘に仕える                       | 15. 12. 29         | 55 | 勲五等となり雙光旭日章を受く               |
| 3. -. -              | 29 | 石川和介の媒酌で中林さんと結婚                   | 18. 12. 28         | 58 | 太政官制廃止とともに官界を引退              |
| 万延 1. 1. 29          | 33 | 藩書調所教授手伝いとなる                      | 21. 12. 28         | 61 | 正五位となる                       |
| 元治 1. 8. 11          | 37 | 開成所教授となる                          | 35. 8. 15          | 75 | 『杉先生講演集』成る                   |
| 慶応 1. -. -           | 38 | 純道を亨二に改名                          | 35. 12. 15         | 75 | 勲三等となり瑞宝章を受く                 |
| 明治 1. 12. -          | 41 | 駿河国に移り徳川家教授方となる                   | 36. 1. 26          | 76 | 法学博士の学位を受く                   |
| 2. -. -              | 42 | 駿河国人別調実施                          | 43. 5. 27          | 83 | 国勢調査準備委員会委員となる               |
| 3. 7. 11             | 43 | 民部省出仕                             | 大正 4. 10. 9        | 88 | 米寿宴を上野不忍池畔笑福亭に開き、自叙伝を作る      |
| 3. 9. 9              | 43 | 民部省出仕を免ぜられる                       | 4. 11. 10          | 88 | 勲二等となり瑞宝章を受く                 |
| 4. 12. 24            | 44 | 太政官正院政表課大主記となる                    | 6. 12. 4           | 90 | 従四位となる                       |
|                      |    |                                   | 6. 12. 4<br>(1917) | 90 | 東京都文京区の自宅にて永眠 (墓所は巢鴨の泰宗寺にある) |